

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

# News Letter

## 設立財団ニュースレター

2024-8

No.31



**巻頭** 新代表理事あいさつ

/ /  
リニューアル  
しました！

**特集** 知床国立公園指定60周年記念  
写真でたどる 私と知床国立公園の60年

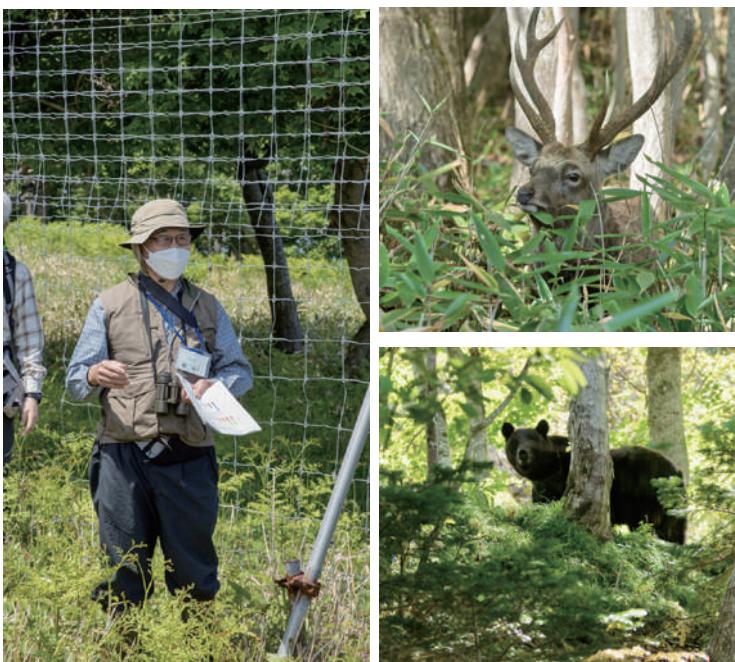
知床ネイチャーキャンパス2024、知床ミーティングのお知らせ など

2023年度事業報告

# 新代表理事の就任にあたつて

梶光一

公益財団法人知床自然大学院大学設立財団は、  
2024年6月より、役員新体制となりました。  
新代表理事の梶光一より、ご挨拶申し上げます。



## ★大型獣の増加が社会問題に

当財団は、野生動物と人間社会の間に生じたさまざま問題の解決と、共生のための新しい思想・技術を創出し、その実践を担う専門家（ワイルドライフマネジヤー）の養成の実現をめざしています。

人口が減少する一方で、シカ・イノシシ・クマ類など大型獣の分布拡大と生息数の増加が起こり、農林業被害のみならず生態系にも影響が生じています。また、クマ類の居住地への大量出没が頻繁に発生し、昨年は深刻な社会問題となりました。

このような背景から、環境省は日本学術会議へ「人口縮小社会における野生動物管理の在り方」の審議依頼を行いました。その回答の中で、地域に根差した野生動物管理を推進する高度専門職人材の教育プログラムの創設が提言されています。それを受けて、関係省庁と大学間連携のもと、モデル・コア・カリキュラムの策定と試行が実施され、社会実装の検討が続けられています。

# 2024年度の主な事業

## ★ 知床ネイチャーキャンパス2024

自然にかかわるWORK&PEOPLE

オンライン講義 2024.8.25 (日)

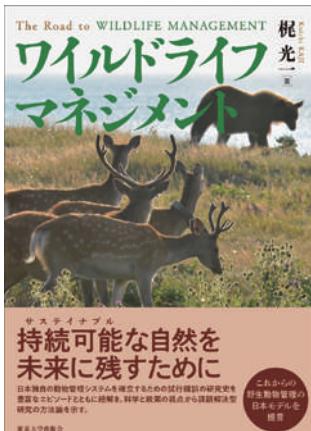
現地実習・演習 2024.9.23 (月・祝) ~25 (水)

## Profile

かじ こういち

梶 光一

1953年、東京生まれ。北海道大学大学院農学研究科博士課程修了。専門は野生動物管理学。北海道環境科学研究センター（現北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所）主任研究員、東京農工大学教授を経て、現在、東京農工大学名誉教授、兵庫県森林動物研究センター所長、野生動物管理全国協議会会長。元日本哺乳類学会理事長、元「野生生物と社会」学会会長。農学博士。知床世界自然遺産地域科学委員会委員を長年務め、著書に『ワイルドライフマネジメント』（東京大学出版会）（写真下）など多数。



梶  
光  
一

（東京農工大学名誉教授）

今後とも変わらぬご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

## ★ オンライン特別連続講座 ワイルドライフマネジメント

オンライン講義 2024.1.16~7.16 隔週1回開催

## ★ ワイルドライフマネジメント 知床ミーティング

エゾシカ・ヒグマ管理の現場にて

現地ミーティング（実習） 2024.10.19 (土) ~21 (月)

## ★ 知床トーク

国立公園指定60周年=知床の歩みと未来を考える

ホテル知床 2024.8.8 (木)

北こぶし知床 ホテル&リゾート 2024.8.13 (火)



## ★ ネイチャーキャンパスの発展へ

わたしたちは、この人材養成を実現するための実践的活動として、2016年から現場教育や実践的トレーニングに重点をおいた「知床ネイチャーキャンパス」を実践してきました。

わたしたちは、これまで蓄積してきた「知床ネイチャーキャンパス」プログラムを海・川・陸域に生息する野生動物、自然環境、人間活動の相互関係を理解し、よりよい関係を構築するために、発展させて継続的な開講を予定しています。

そして、学びの対象者をこれまでの大学生・大学院生・現職者等から、高校生や一般住民にまで拡大し、ワイルドライフマネジャーを核としながら環境全般専門職、若年者教育、研究者の養成を目指します。

# 写真でたどる 私と知床国立公園の60年

## Interview



なかがわ  
はじめ  
**中川 元**

1950年北海道生まれ、北海道大学農学部卒業、知床博物館学芸員や知床財団事務局長を経て、2011年まで知床博物館長、2013年より当財団業務執行理事。

2024年は知床が国立公園に指定されて60周年。うち40年以上、知床で野生動物の調査研究や保護活動に携わってきた中川元・当財団業務執行理事が、写真とともに60年を振り返ります。

③



①



1978年

②



1980年

私が斜里に来たのは78年、知床博物館の開館に伴い、自然系学芸員に採用されたのがきっかけです。79～80年には北海道による知床半島自然生態系総合調査に参加しました。

②は調査の際、知床岬の第3岩峰で撮った写真です。私が一番右で、隣にいるのは北海道大学のヒグマ研究グループ（通称・クマ研）の学生です。この時は多くの研究者や学生が、海岸、山、川とくまなく知床のフィールドを踏査しました。大自然の中でキャンプしながら調査したこととは本当に思い出深く、調査結果は報告書に加え、写真③の『知床の動物』（北海道大学出版会、1988）という本にまとまりました。

④はかつて調査で歩いた知床横断道路の開通直後の頃の写真です。ピクニック気分で楽し

知床が国立公園に指定された1964年は、札幌の中学生でした。でも新聞にそのニュースが載っていたのは覚えてますよ。私は地図好きでよく地図帳を眺めていたので、知床の場所もわかつていました。その後大学を卒業し、73年に中標津町で就職しました。その頃初めて知床を訪れ、ウトロでキャンプをしたり、羅臼岳に登つたりしていました。ちょうど「知床旅情」のヒットによる知床ブームで観光客が増えてきた頃ですね。当時は根室自然保護教育研究会に所属していて、その頃から知床横断道路の工事が環境に与える影響を調査していました。環境省レンジャーの案内で予定線を歩き、鳥や植物の調査を行いました。どんな工事をしているか、一般にはほとんど知られていなかつたのです。その調査風景が①の写真ですね。（この写真是私が斜里に来てからのものです）

## 知床国立公園 年表

1961(昭和36)	国の自然公園審議会が 国立公園指定を答申
1962(昭和37)	知床五湖・ルシャ間の知床 林道着工(1969年開通)
1964(昭和39)	知床横断道路が開発道路と して着工
1964(昭和39)	知床国立公園指定
1966(昭和41)	岩尾別開拓地に残る最後の 24戸が集団移転 知床五湖遊歩道完成
1971(昭和46)	「知床旅情」ヒットによる 知床ブーム
1974(昭和49)	「知床憲章」制定
1977(昭和52)	しれとこ100平方メートル 運動開始
1978(昭和53)	知床博物館開館
1979(昭和54)	北海道による知床半島自然 生態系総合調査実施
1980(昭和55)	第1回知床自然教室 知床横断道路開通
1982(昭和57)	国設知床鳥獣保護区指定
1983(昭和58)	羅臼ビジターセンター開館
1984(昭和59)	環境庁によるシマフクロウ 保護事業開始
1986(昭和61)	北見営林支局が国有林伐採 計画公表、反対運動広がる 北見営林支局が初年度分の 伐採強行
1987(昭和62)	午来昌さんが斜里町長に当 選、伐採計画事実上中止
1988(昭和63)	知床自然センター開設 知床財団設立
1990(平成2)	知床森林生態系保護地域指 定
1993(平成5)	林野庁がシマフクロウ保護 管理事業開始
1997(平成9)	しれとこ100平方メートル 運動募金目標達成、新運動 として展開開始
1999(平成11)	知床五湖・カムイワッカ間 の車両規制実施
2004(平成16)	ユネスコに知床の世界自然 遺産登録を推薦、IUCNによ る現地調査
2005(平成17)	知床の世界遺産登録
2006(平成18)	油汚染海鳥が大量漂着
2011(平成23)	知床五湖地区が利用調整地 区に指定、新しい利用シ ステムスタート
2022(令和4)	知床観光船沈没事故発生
2023(令和5)	自然公園法改正により、ヒ グマへの接近やつきまとい 規制
2024(令和6)	知床国立公園指定60周年

今でいる様子が見られますが、野生動物と人と  
の問題が頻発するのはこのあとのことです。開  
通後の沿線調査でヒグマがかんだジュースの空  
き缶を見つかけました。ちょうどマイカーが一般  
にも普及した頃で、横断道路はマイカーで行く  
絶好の行楽地となつたのです。この頃私も子ども  
が小さかつたのですが、連休も夏休みも忙し  
く、なかなか家族で出かけることができません  
でしたね。

知床横断道路開通と同じ80年、知床自然教  
室が始まりました。これは77年に始まつた「し  
れとこ100平方メートル運動」の参加者の子  
どもたちが大自然の中で一週間の野外生活を  
しながら、さまざまな自然体験をするイベント  
です。私は初回から運営スタッフとして参加。<sup>⑤</sup>  
の写真は81年の第2回で、野鳥観察をしていま  
すね。この年は開催最終日に後に56災害と呼ば  
れる豪雨があり、ウトロ市街など各地で大きな  
被害が発生。自然教室メンバーはできたばかり  
のウトロ漁村センターを宿舎にしていました  
が、そこが避難所になりました。自然教室の参  
加者と避難してきた住民たち、奥知床での調  
査中から歩いて避難してきたクマ研メンバーら

④



1982年

⑤



1981年

⑥(次ページ)は86年に知床国有林伐採計画  
が明るみになつた後、林野庁北見営林支局が行  
つた現地説明会の様子です。これは、100平  
方メートル運動地に隣接する国立公園内17  
00haで、10年間で約1万本の大木を伐採する  
というもの。<sup>⑦(次ページ)</sup>の写真は伐採予定の  
テーブが巻かれたミズナラの大木。知床自然教  
室で観察フィールドにしていた森でした。自然  
保護団体による反対運動やマスコミの大々的な  
報道で、全国的な動きに発展しました。

当時私は知床で唯一の生物系学芸員でした  
ので、報道機関や団体、行政、賛成派、反対派問  
わず、各方面から昼夜にわたり問い合わせや  
資料提供を求められました。森や動植物の状  
況はどうなのか?と、資料を詰め込んだ重いシ  
ヨルダーバッグを引きずるようにして職場と自  
宅を行き来していました。正確な情報を持つて  
もらい、良い問題解決につなげてもうう。その  
判断材料を提供するのが地方博物館の役割で

と食糧を分け合いました。ウトロ・斜里間の道  
路も途絶しましたが、前年開通した知床横断  
道路が生命線となり、子どもたちはその日の  
うちに斜里へ戻ることができました。

時代は進み、⑧は2004年、政府がユネスコに知床の世界自然遺産登録を推薦し、審査機関（IUCN）の現地調査に同行した際の写真です。羅白平で、右が私、左が担当者のデビッド・シェパード保護地域事業部長ですね。船やヘリを使つた調査のほか、漁業組合や観光協会など地元関係団体へのヒアリング、シェパードさんをお迎するレセプションもありました。私は03年頃からユネスコへ提出する推薦書作成をお手伝いし、現在の科学委員会の前身「知床世界自然遺

あり、地元に住む専門家の役割とthoughtいました。87年4月、一部伐採が強行されました。その後の選挙で保護派の午来昌町長が誕生し、計画は事実上中止に。この問題を契機に林野庁は国有林管理の大転換を行い、90年に知床国有林を「森林生態系保護地域」に指定。生息する野生動物を含めて原生的な自然生態系を保護する地域としました。



⑦ 1986年



⑧ 2004年



⑥ 1986年



2006年

60年をざつと振り返りました。知床国有林伐採問題を経て、知床は眞の保護地域として地元でも全国的にも認識され、世界自然遺産登録に結びつきました。その一方で、知床の姿はその後も変化します。エゾシカの急増は森や草原の植生を変え、人を恐れず行動するヒグマが増加。観光も団体から個人へ、自然探勝型から体験型へと変わりました。野生動物の行動変化は人や社会の変化と無関係ではなく、解決すべき課題は次々生じます。幸い知床には長年の試行錯誤や合意形成の経験が蓄積されており、正解のない多様で複雑な問題を解決していくことが今後也可能でしょう。

05年7月、知床は無事、世界自然遺産に登録されました。翌06年に油に汚染された海鳥の大規模漂着があり、大きな衝撃を受けました。⑨は獣医さんや野鳥の会のボランティアの協力で漂着した海鳥の回収と調査を行っているところです。エトロフウミスズメなどの海鳥5568羽とそれを食べたオオワシ2羽を回収しました。知床は海域を含む世界遺産です。オホーツク海を南下する流水がもたらす豊富な養分が知床の生態系を支えています。原因はわからずや油田からの油流出がおこると、あつという間に知床の自然にも大きな影響が出ます。海流は栄養分だけでなく汚染も運ぶことをこの事件が教えてくれました。環境保護は地球全体で進めなくてはならないと痛感しました。

産候補地科学委員会」に委員として参画。科学的保護管理の体制構築という意味で、国内の世界自然遺産で初めて科学委員会ができたことは本当に画期的でした。

受講生  
募集中

## 知床ネイチャーキャンパス2024を開催

テーマは「自然にかかわるWORK&PEOPLE」



オンライン講義と現地知床実習・演習を組み合わせた複合型プログラム。自然に関わる仕事の実際について理解を深め、特に現地実習では実際に現場（バッカヤード）を見学し、働く人の声を聞きます。ぜひ将来の進路や職業選択に役立ててください！

### オンライン講義

2024年8月25日（日）

10:00～16:30予定

定員：80名

受講料：3,000円

### 現地実習・演習

2024年9月23日（月・祝）～25日（水）

※23日は8:30集合、25日は13:00頃解散

実習場所：知床世界遺産地域内と周辺地域

演習場所・宿舎：ホテル知床

定員：20名

参加費：35,000円

### 申込先



<https://forms.gle/DSjbmJYfkb88NKF6>

### 講師

鈴木正嗣さん（講義1）岐阜大学応用生物科学部教授

梶 光一さん（講義2、現地実習・演習）兵庫県森林動物研究センター所長

秋葉圭太さん（講義3、現地実習・演習）公益財団法人知床財団 事業部参事/公園事業推進プロジェクトリーダー

松林良太さん（講義4）公益財団法人知床財団 事業部参事（保護管理事業担当）

遠矢駿一郎さん（講義5）環境省自然環境局自然環境計画課 生物多様性主流化室 室長補佐

受講生  
募集中

## ワイルドライフマネジメント 知床ミーティング



今年1月から隔週1回開催してきたオンライン特別連続講座「ワイルドライフマネジメント」（講師：梶光一・東京農工大学名誉教授）の受講生向けに、「知床ミーティング（実習）-エゾシカ・ヒグマ管理の現場にて-」を開催します！

講師は引き続き梶光一・東京農工大学名誉教授と、現地管理業務にあたる公益財団法人知床財団のスタッフ。知床で講義内容を振り返り、オンライン講義では難しかった講師、受講生同士の交流が深められればと考えています。

### 知床ミーティング（実習）

2024年10月19日（土）～21日（月）

※19日は9:00集合、21日は9:00頃解散

実習場所：知床世界遺産地域内と周辺地域

演習場所・宿舎：ホテル知床

定員：20名

参加費：55,000円

### 申込先



<https://forms.gle/qgMD7FNL3wUohKyW8>



## 知床トーク 斜里町ウトロのホテルで開催

斜里町ウトロの2ホテルを会場に、宿泊客・観光客や地元住民向けの知床トーク「国立公園指定60周年=知床の歩みと未来を考える」を開催します。

知床国立公園の歴史から、現在、未来への可能性について、2人のスピーカーがお話しします。申込不要、入場無料ですので、お気軽にご参加ください。

1 日時：2024年8月8日（木）20:00～21:00  
場所：ホテル知床（斜里町ウトロ香川37）  
スピーカー：中川元（当財団業務執行理事）  
「知床国立公園の歩んだ60年 =その歴史と現在=」

2 日時：2024年8月13日（火）20:00～21:00  
場所：北こぶし知床 ホテル&リゾート（斜里町ウトロ東172）  
スピーカー：寺山元（インパウンド向けガイド）  
「歩く旅から見える知床の価値  
3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイル」

## 京都市立西京高等学校の研修旅行で ヒグマに関するワークショップを行いました！

2024年3月4日、研修旅行で知床を訪れた京都市立西京高等学校の1年生33人を対象に、ヒグマとの共存を考えるワークショップを開催しました。昨年は全国でクマの出没が相次いだこともあり、これらを身近な問題として捉えてきた生徒さんからの希望で、知床におけるヒグマとの共存をテーマとしました。

研修旅行に備え、1月にはZoomを使った事前学習を実施。当財団の中川元・業務執行理事と、ウトロ地区の住民である一般社団法人知床しゃりの高木唯さんからヒグマの生態や知床での課題、住民目線でヒグマと共にすることの意味などをお話ししました。

当日は知床自然センターで、知床財団でヒグマ対策を担う伊集院彩暮さんのお話を伺ったり、ヒグマと人との課題を描いた映像作品を鑑賞したり、ヒグマ対策用ゴミステーション「とれんベア」について紹介したりしました。

ワークショップでは事前に提示していた問い合わせに改めて向き合いました。最終的な発表では「共存と共生の違い」や「クマ問題は人と人の問題である」など今回の学習を通じて新たに学んだことのほか、「共存のかたち」として「人とヒグマのすみわけ、相互不干渉が大事」、「観光資源の側面もあり、完全な不干渉は無理」など、さまざまな意見が出ていました。「どんな方法で？」「それってどういうこと？」など、生徒さん同士でディスカッションする場面もあり、学習を通じて当初よりも「ヒグマと人との共存」の解像度が上がったのではないかと思います。



## 大阪教育大附属高校天王寺校舎2年生向けに ヒグマに関するオンライン授業を行いました！

2024年6月24日、大阪教育大附属高等学校天王寺校舎2年生約160人に向けて、ヒグマに関するオンライン授業を行いました。

2年生が10月に修学旅行で知床訪れるのを前に、知床の生態系やヒグマについて学習したいと学校側からの要望があり実現しました。

授業では当財団の中川元・業務執行理事と、ウトロ地区の住民である一般社団法人知床しゃりの高木唯さんが講師を務め、ヒグマの生態や知床での課題、住民目線でヒグマと共にすることの意味などをお話ししました。

生徒さんからはヒグマと出会わないと方法、出会ってしまった時の対処法などの質問が寄せられ、講師がお答えしました。知床での修学旅行が良い思い出になるよう願っています。



# 2023(令和5)年度 事業報告

## はじめに

令和5年度は財団設立から11年目、公益財団法人認定から10年目の年となり、引き続き定款に基づく事業を展開しました。前年度までの3年間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業実施に様々な制約がありました。今年度から受講生が現地集合して対面で実施するプログラムや、地元住民との交流を含めたプログラムの再開が可能となりました。

教育手法として昨年度より導入したケースメソッド手法をさらに充実させ、講義、実習、ワークショップ演習を組み合わせた「知床ネイチャーキャンパス」

「2023 ステップアッププログラム」を実施し、独自の教育プログラムとしての確立を図りました。加えてオンライントークセッションやオンライン連続講義を開催し、知床ネイチャーキャンパスを核とした教育実践とカリキュラム確立、各種の広報事業の展開、調査研究事業など、定款に沿った公益目的事業の取り組みと公益法人制度に則った適切な組織運営に努めました。これら活動には、賛同いただいている全国の個人や企業・団体からの賛助会費、寄付金の支援のほか、公的助成制度の適用を受けることができました。

## 公益事業に関する報告

### 【1】知床ネイチャーキャンパスの開催

#### ① ステップアッププログラム

Part1：エゾシカ管理

Part2：ヒグマ管理

オンデマンド配信講義

2023年8月10日～9月15日 9月8日～10月20日

ケースメソッド授業

2023年9月16、17日

10月21、22日

現地知床実習・演習

2023年9月27日～30日

10月28日～31日

エゾシカ管理は17名、ヒグマ管理は14名が参加。それぞれ現地知床の現場を歩き、講師とともに、知床における管理の実際を学びました。最終日には公開のオープンキャンパスで成果を発表しました。



#### ② 知床トーク

野生動物と私たち～つきあい方の過去・現在・未来

ステップアッププログラムのPart2：ヒグマ管理開催中の2023年10月28日、当財団理事である梶光一・兵庫県森林動物研究センター所長を講師に迎え、知床第一ホテル大会議室で講演会を行いました。受講生や地元住民など41名が参加。トークや意見交換を通じて、野生動物との共存について理解を深めることができました。

### ③オンライン特別連続講座

#### 「ワイルドライフマネジメント」

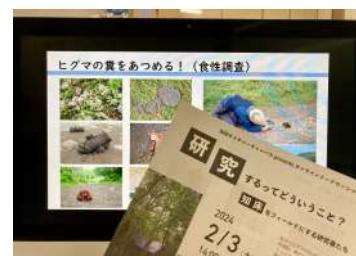
2024年1~7月、梶光一・兵庫県森林動物研究センター所長を講師に、ZoomとYoutube liveを併用した無料のオンライン講座を、隔週月2回、計14回開催しました。180名の申込があり、活発な質疑応答も行われ、ブログに回答を掲載し、フォローアップも行いました。



### ④オンライントークセッション

「研究するってどういうこと?~知床をフィールドにする研究者たち」

2024年2月3日、知床をフィールドに研究を行ってきた若手研究者3人のトークと、研究することについて考える意見交換の時間を設けました。Zoomによるオンライン開催で、全国各地のほか、韓国、ドイツ、モンゴルから65名の参加者がありました。



## 【2】その他の活動

### 札幌圏・首都圏での活動

札幌圏で当財団を応援する市民の会「札幌シャチの会」、首都圏の役員、支援者による「首都圏の会」による活動。若者主体の継続性ある企画検討のほか、2023年9月に代々木公園で開催された「北海道産直フェア」でPR活動を行いました。

### 京都市立西京高校の研修旅行コーディネート

同校からの要請受け、2024年3月4日、1年生33名が参加する北海道研修旅行の知床滞在時におけるフィールドワークとワークショップのコーディネート及び現地指導を行いました。1月25日にはZoomによる事前学習も実施。

※詳しくはP8を参照ください

### ニュースレターの発行

29号 2023年7月1日発行 14p

30号 2023年12月20日発行 12p

### 知床ネイチャーキャンパス報告書の発行

2024年3月10日発行 24p



### ネットを使った広報活動

ホームページ（ブログ）  
Facebook、X、Instagram  
を継続運用し、行事案内や  
知床の話題など幅広い情報  
発信を行いました。

## 【3】調査研究事業

ケースメソッドの野生動物管理教育への導入について前年度に續いて検討を進め、新たな教材資料の作成、知床ネイチャーキャンパスプログラム内でのケース授業の実践を行いました。

また、オンラインによるワークショップ演習の開催など、多様なプログラムへのオンライン手法の導入を検討しました。これらの検討を基に、効果的な新しい教育プログラム構築のための調査研究を進めました。

環境省による令和5年度「オジロワシ・オオワシ保護増殖事業 越冬個体数等調査業務」を調査事業の一環として請け負い、道内各地の協力のもとに実施しました。11~3月の5ヶ月間、毎月1回の一斉調査を行い、両種の越冬個体数と分布の変化、越冬環境等が詳しく調べられました。希少種保護のための基礎資料が得られたことに加え、道内各地で「野生生物保護管理」の現場を担う地元メンバーと調査グループのネットワーク体制が強化され、野生生物と人との共存の重要性と人材養成の必要性を広く発信する機会につながりました。

## ファンドレイジング状況

	種別	実績(件数)	実績(金額)
賛助会員	個人	91	455,000
	団体	6	60,001
	法人・法人特別	32	1,360,000
	小計	129	1,875,001
		43	3,184,857
		4	329,510
	合計		<b>5,389,368</b>
設立資金		1	130,000

(単位:円)

賛助会員の新規募集と寄付金の要請は、資金獲得ワーキンググループを中心に取り組みました。新規賛助会員の加入を得た一方で、高齢等により会員継続されなかった会員の方もいらっしゃいました。寄付金収入は前年度に実施したクラウドファンディングに該当する活動を実施することができず、前年の3分の1程度となりました。

## 2023年度 決算報告

### 正味財産増減計算書

令和5(2023)年4月1日～令和6年(2024)3月31日

科目	金額
基本財産運用益	51
受取会費	1,875,001
受取寄付金	3,514,367
受取補助金等	1,500,000
事業収益	4,637,914
雑収益	120,180
<b>経常収益計</b>	<b>11,647,513</b>
事業費	11,027,326
管理費	1,700,538
<b>経常費用計</b>	<b>12,727,864</b>
当期経常増減額	△1,080,351
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	△1,080,351
当期指定正味財産増減額	130,046
<b>正味財産期末残高</b>	<b>6,881,613</b>

※事業収益には、  
知床ネイチャーキャンパス受講料と、  
環境省による「オジロワシ・オオワシ保  
護増殖事業 越冬個体数等調査業務」の  
受託金が含まれます

### 貸借対照表

令和6(2024)年3月31日現在

科目	金額
流動資産 ①	6,632,305
固定資産 ②	6,306,497
基本財産	3,000,000
特定資産	3,246,497
その他固定資産	60,000
<b>合計 ①+②</b>	<b>12,938,802</b>
流動負債 ③	6,057,189
固定負債 ④	0
(1)負債合計(③+④)	6,057,189
指定正味財産 ⑤	6,246,497
一般正味財産 ⑥	635,116
(2)正味財産合計(⑤+⑥)	6,881,613
<b>合計 (1)+(2)</b>	<b>12,938,802</b>

基本財産運用益・雑収益 1%



# 活動支援のための 賛助会員・寄附金のお願い

知床ネイチャーキャンパスをはじめとする当財団の事業は、皆様からの淨財によって行われています。一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

当財団は内閣総理大臣の認定を受けた公益財団法人であり、当財団への寄付金・賛助会費は、特定公益増進法人に対する寄付金として税法上の優遇措置が適用されます。

法人の皆様には損金算入限度額の優遇措置が、個人の方には所得税の税額控除（または寄付金控除）の対象となります。また遺贈も承っております。

詳しくはホームページ、または当財団事務局までお問い合わせください。

## ■ 賛助会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

個人会員	5,000円
団体会員	10,000円
法人会員	20,000円
法人特別会員	100,000円

## ■ 寄附金について

寄附金も隨時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

## ■ 主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号19940（普）10138691  
(※他の金融機関から 店名九九八 番号1013869)  
北洋銀行斜里支店 店番452 （普）3119440

知床自然大学院大学設立財団ホームページ

賛助会員・寄付金募集ページ

<http://shiretoko-u.jp/supporter/>



公益財団法人  
**知床自然大学院大学設立財団**

〒099-4117  
北海道斜里郡斜里町青葉町28番地10  
TEL : 0152-26-7770 FAX : 0152-26-7773  
E-mail : sizendaigaku@wine.plala.or.jp  
WEB : <https://shiretoko-u.jp>



Facebook @shiretoko.u  
X @sizendaigaku  
Instagram @shiretoko\_u

設立財団ニュースレター No.31

発行日 2024年8月10日

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団